

小学校外国語活動授業づくり フックレット

言語活動例集

明日の授業に
役立つために



秩父市英語教育推進委員会

秩父市教育委員会

本ブックレット作成について

英語教育の充実については、平成32年度の小学校及び平成33年度の中学校の新学習指導要領全面実施に向け、対応が必要である。特に今回の改訂では小学校のカリキュラム面で大きな改革が行われ、今年度移行期間初年を迎え、3・4年生では15時間、5・6年生では50時間の外国語活動を行っている。

また中学校でも33年度からの新学習指導要領では語彙数の増加や授業を基本的に英語で行う等、大きな変革期を迎える。また小・中の効果的な接続が今まで以上に求められる。それら解決すべき問題を検討するために昨年度新たに組織された英語教育推進委員会を今年度も4回開催した。

特に各小学校においては日々の外国語活動の授業づくりを創意・工夫をしながら、研究しているところであるが、悩み、試行錯誤している現状がある。本ブックレットはそのような小学校教員の日々の助けになるように「明日の授業で使える・参考になる」ことを考えて作成された。推進委員が4つの班に分かれ、児童が自分の考えや気持ちを伝え合うことが出来る言語活動例集になるように検討を重ねてきた。英語教育について実績がある中学校教員が小学校教員に助言を与え、また小学校教員が中学校教員に小学校英語の現状について語るなど、小・中連携が進んだことが本委員会の最大の収穫の一つとなった。

なお、「言語活動例集」であるが、外国語活動の授業の現状を考え、言語活動をする準備としての「ゲーム活動」も含まれている。また紹介されている活動通りに行うだけでなく、各校の現状に合わせ修正するなどして、より効果的な言語活動を授業で展開していただきたい。また小学校外国語活動の授業づくりのブックレットではあるが、中学校においても参考とし、さらに発展した言語活動の一助にしていきたい。

活動名	アルファベット辞典をつくろう
活動時間	30分
活動の単元	We Can! 1 Unit1 Hello, everyone.
活動のねらい	・アルファベット（大文字）に親しむ
取り上げる英語表現	～, please. Here you are. (はい、どうぞ)
取り上げる英単語（例）	ABCD... ・児童が身近なアルファベットを見つけてメモした紙 ・グループごとにアルファベットをまとめる紙 ・のり（または、ふせん）
活動内容／活動の流れ	
<p>① 予め、児童は身近なアルファベットを探し、紙に記入しておく。 （宿題として課題を与えておく。自分が発見したものの『P』、『ON』、『NEC』など短くて大文字で構成されたものに限定する。また、発見したところや意味を添えてメモ出来る人はしておくようにする。）</p> <p>② 3～4名のグループになり、アルファベットをアルファベット順にまとめていく。</p> <p>③ まとめ役の人が、'A please.'と言ったら、Aで始まるものを持っている人が'Here you are.'と言って差し出し、'Thank you.'と言って貼る役の人が紙に貼っていく。</p> <p>④ A～Zまでやったら完成。</p> <p>⑤ チームのアルファベット辞典を発表し、発見したことややってみたい感想を発表する。</p> <p>※ アルファベットを習い、カードで並べるなど様々な活動でアルファベット順を学習した後、日本語のあいさつのように英語では、ABCDの順が辞書引き等で活用されることを感じることができる。</p>	

活動名	英語版七並べ
活動時間	20～25分
活動の単元	We Can! 1 Unit2 When is your birthday?
活動のねらい	・英語の文字の認識を深める。（大文字・小文字） ・数字、月の名前に慣れ親しむ。
取り上げる英語表現	Let's Listen. (聞きましょう。) Finish. (終わりにしなさい。) This is X. (これはXです。) I'll pass. (私はパスします。)
取り上げる英単語	〈大文字〉A～Z 〈小文字〉a～z 〈月〉January～December 〈数字〉one～thirteen 〈序数〉1st～31th
準備するもの	・カード（アルファベット、月、数字等）
活動内容／活動の流れ	
<p>① 活動させるアルファベットや月、数字などを練習する。 ・単元の言語材料である When is your birthday? (あなたの誕生日はいつですか。) My birthday is August 19th. (私の誕生日は8月19日です。) など単語だけでなく、文章を使って練習することもできる。</p> <p>② アルファベットの大文字なら始めに「G」「T」を机に置き、その両脇の「F、H、S、U」から手持ちのカードを発音しながら置いておき、七並べのルールで行う。</p> <p>(例) S1: This is May. (これは5月です。) S2: This is April. (これは4月です。) S3: I'll pass. (私はパスです。)</p> <p>※I'll は未習表現であるため、詳しい説明をせず、音声で慣れ親しませる。</p>	

活動名		ミッシング・ゲーム
活動時間	5～10分	
活動の単元	We Can! 1 Unit 3 What do you have on Monday?	
活動のねらい	・教科等の言い方に十分慣れようとする。	
取り上げる英語表現	Close your eyes. (目を閉じてください。) Open your eyes. (目を開いてください。) What's missing? (何がなくなっていますか。) That's right. (その通りです。) It's your turn. (あなたの番です。) You're a teacher. (あなたが先生です。) 	
取り上げる英単語(例)	<教科> Japanese math social studies science music P.E. arts and crafts moral education calligraphy English	
準備するもの	・教科絵カード	
活動内容/ 活動の流れ		
※教科の絵カードを黒板に貼り、目をつぶっている間に1枚隠し、どの教科の絵カードがなくなったかを当てる活動である。事前に教科名を何度も練習させたい。		
① 教師と児童で行う。		
HRT/ALT: Close your eyes. (目を閉じてください。) 1枚カードを取って隠す。 HRT/ALT: Open your eyes. (目を開いてください。) HRT/ALT: What's missing? (何がなくなっていますか。) S: English. (英語です。)[なくなったカードを答える。] HRT/ALT: That's right. (その通りです。) 		
② 児童同士で行う。		
S1: Close your eyes. (目を閉じてください。) 1枚カードを取って隠す。 S1: Open your eyes. (目を開いてください。) S1: What's missing? (何がなくなっていますか。) S2: Science. (理科です。)[なくなったカードを答える。] S1: That's right. It's your turn. (その通りです。あなたの番です。) S1: You're a teacher. (あなたが先生役です。) ※役割交代してS2が先生の役になる。		
※表現がわからない時は、言い方を教えながら行う。 ※いろいろな単語でも活動できる。		

活動名	自分や友だちの活動時間を紹介しよう！
活動時間	5～10分
活動の単元	We Can! 1 Unit 4 What time do you get up?
活動のねらい	・一日の生活について話したり聞いたりすることができる。
取り上げる英語表現	What time do you get up? (あなたは何時に起きますか。) I get up at 6. (私は6時に起きます。)
取り上げる英単語 (例)	〈動詞〉 go, eat, study, get, do, play, take 〈時間〉 1～60 〈曜日〉 Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday
準備するもの	・ビンゴカード ・算数で使うような模型の時計
活動内容/ 活動の流れ	
◇基礎となるアクティビティー◇	
① 60 number Bingo 9マスに60までの数字を入れ英語でビンゴをする。	
② 60 bomb game ペアになり英語で1から数個の数字を順番に言っていき60を言った人が負けになる。	
◇応用となるアクティビティー◇	
③ Chain game (前の人の答えも言うチェーンゲーム)	
☆やり方☆ (4人で行う場合)	
・班で丸くなり “What time do you get up/go to bed?” の質問に対して、一人目から順に “I get up/go to bed at seven.” などと答えていき、2番目の人からは前の人の時間を加えながら “At seven, I get up at six.” と行っていき、最終的には “At seven, six thirty, five, I get up at six.” などと全員の答えも含めて自分の答えを言う。	
④ Gesture game (演技を見て英語で答えるゲーム)	
☆やり方☆	
ペアになり、演技をする人に対して、見ている相手が英語で説明する。いくつかやったら交代する。(使うもの…時計)	
S1: [時計の6時を提示して起きるまねをする。]	
S2: I get up at six. (私は6時に起きます。)	
S1: [時計の8時を提示して学校に行くまねをする。]	
S2: I go to school at 8. (私は8時に学校に行きます。)	
S1: [時計の12時を提示して給食を食べるまねをする。]	
S2: I eat school lunch at 12. (私は12時に給食を食べます。)	

活動名	私はだれでしょうクイズ
活動時間	20分程度
活動の単元	We Can! 1 Unit5 She can run fast. He can jump high.
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・できること、できないことについてジェスチャーをもとに聞き、当てはまる物を推測する。 ・色や好きなもの等で既習の復習・活用をする。
取り上げる英語表現	<p>I can/can't run fast. (私は速く走ることができます。/できません。)</p> <p>I like fish. (私は魚が好きです。)</p> <p>I am big. (私は大きいです。)</p>
取り上げる英単語(例)	<p>〈動作〉swim jump run climb</p> <p>〈色・大きさ〉big small black white yellow blue brown</p> <p>〈国〉America Australia (物) fish bamboo</p>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズに出すための動物や児童の知っていそうな有名人の写真や絵 ・イラストカード
活動内容/ 活動の流れ	
<p>※ALT は英語で「私は誰でしょう」とクイズを出題する。担任はその横で動きのジェスチャーをしたり、できること、できないことを手でボタンを作ったりして示す。耳からの情報だけでなく、視覚的な情報も複合的にとらえさせ児童に推測させる。また、ALT の言葉を担任が繰り返して伝えたり、一部を日本語に直したりしても良い。</p> <p>答える際は、分かった時点で手を挙げさせ担任にだけ伝えるようにし、複数名正解が出てから全体で共有したりする。</p> <p>① 既習事項の英単語や文の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リファード」等を使い、その後の活動で使用する単語や、I like ~の表現の復習・練習をさせる。 <p>② HRT と ALT でクイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT が教卓の前に立ち英語でクイズを出す。HRT はその横でジェスチャーをしたり、ALT のクイズを繰り返して伝えたりする。内容によっては日本語とミックスすることも考えられる。 <p>(例)</p> <p>ALT: I am an animal. (私は動物です。)</p> <p>I can walk. (私は歩けます。)</p> <p>I can eat bamboo. (私は笹を食べることができます。)</p> <p>I am white and black. (私は白黒色です。)</p> <p>I am from China. (私は中国からきました。)</p> <p>S: You are a panda. (あなたはパンダです。)</p>	

<p>・クイズの例 (動物)</p>	<p>1 I am from <i>hokkyoku</i>. (私は北極から来ました。) I am big. (私は大きいです。) I can walk. (私は歩けます。) I can swim. (私は泳げます。) I am white. (私は白色です。)</p> <p>正解はシロクマ。</p> <p>2 I can jump. (私はジャンプできます。) I can stand up with two legs and a tail. (私は二本足と尻尾で立てます。) I am from Australia. (私はオーストラリアから来ました。) I can box. (私はボクシングができます。)</p> <p>正解はカンガルー。</p> <p>3 I can jump. (私はジャンプできます。) I am small. (私は小さいです。) I have red eyes. (私は赤い目をしています。) I have long ears. (私は長い耳をしています。)</p> <p>正解はウサギ。</p> <p>4 I can run. (私は走れます。) I can go up the tree. (私は木に登れます。) I like fish. (私は魚が好きです。) I can catch fish in the river. (私は川で魚を捕まえることができます。)</p> <p>正解はクマ。</p>
<p>その他の方法</p>	<p>① 慣れてきたら、児童同士で問題を考え出し合わせる。</p> <p>② JTE を指さし、JTE が何なのかを推測させる。</p> <p>ALT: He (She) can run. (彼(彼女)は走れます。) He (She) can go up the tree. (彼(彼女)は木に登れます。) He (She) can catch fish in the river. (彼(彼女)は川で魚を捕まえることができます。)</p> <p>※He (She) is～. については未習であるが、音声(特にリスニング)では与えてもよい。</p>

活動名	宝探しをしよう
活動時間	10～15分
活動の単元	We Can! 1 Unit7 Where is the treasure?
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> どこにあるかわからないものを相手に聞きながら、見つけ出そうとする。 隠し場所について既習事項を使って説明することができる。
取り上げる英語表現	<p>Where is the treasure? (宝物はどこにありますか。)</p> <p>Go straight. (まっすぐ進みます。)</p> <p>Turn right. (右に曲がります。)</p> <p>Hint, please. (ヒントをください。)</p>
取り上げる英単語 (例)	<p>〈身の回りの物〉 cup basket bat castanets compasses dice glasses globe glove map mat piggy bank wall whistle yo-yo cap</p> <p>〈方向〉 right left straight</p> <p>〈施設・建物〉 fire station gas station police station post office hospital supermarket convenience store department store park library school park station bookstore</p>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> 自分の宝物の絵・ピクチャーカード
活動内容／活動の流れ	
<p>※ペアやグループになり、1人が自分の持ち物を教室内に隠す。他の児童はそれがどこにあるか尋ねる。隠した児童は、英語を使ってヒントを与えていく。コミュニケーションを行う場面を意識した言語活動である。</p>	
<p>① 既習事項の英単語や、Where is the treasure?の疑問文とその答え方の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ピクチャーカード等を使い、その後の活動で使用する単語や、Where is the treasure? の表現とそれに対する答え方を何度も練習させる。 <p>② 自分の宝物を絵に描く。(宿題として行っても良い。)</p> <p>③ HRT と ALT でデモンストレーションを行う。HRT が教卓前に立って後ろを向き、ALT が宝物を教室のどこかに隠す。HRT は隠した宝物がどこにあるか、ALT のヒントをもとに探し出す。</p> <p>〈例〉 HRT: Where is the treasure? (宝物はどこにありますか。)</p> <p>ALT: Go straight. (まっすぐ進みます。)</p> <p>Turn right. (右に曲がります。)</p> <p>You can see it on your left. (あなたの左側で見つけられますよ。)</p> <p>④ グループで隠す人を1人決める。他の児童は机に顔を伏せる。他の児童に気づかれないように宝物を隠す。</p> <p>⑤ 他の児童が宝物を隠した児童に“Where is the treasure?”と尋ね、隠した児童は“Go straight.”などとヒント</p>	

トを与える。見つからない場合は“Hint, please.”とヒントを求める。

⑥ 宝物を隠した児童は英語でヒントを与える。見つかるまで③、④を繰り返す。

(例) S1: Where is the treasure? (宝物はどこですか。)

S2: Go straight. (まっすぐ行ってください。)

Stop! (止まってください。)

Turn left. (左に曲がってください。)

You can see it on your right. (あなたの右側で見つかりますよ。)

S1: Oh, it's under the desk. Thank you. (あー、机の下にあった。ありがとう。)

⑦ 宝物を隠す人を変えて、同じ活動を行う。

・活動がうまくいかない場合は支援する。

※次の活動を行うことが望ましい。

上記の①～⑦を行い、宝物が見つかった後になぜそれが宝物なのかを尋ねたり、答えたりする活動を行う。

(サッカーボールの絵を描いた場合)

S1: Why do you love it? (なぜそれが大好きなんですか。)

S2: Because I play soccer. (なぜなら私はサッカーをするからです。)

※中学校で行う場合はさらに自分の宝物について簡単なスピーチをさせる。

(例) My treasure is this racket. (私の宝物はこのラケットです。)

My father gave it to me last year. (私の父が去年私にくれました。)

I use it every day. (私はそれを毎日使います。)

I want to be a good tennis player. (私はよいテニス選手になりたいです。)

その他の方法

- ・絵に描いた宝物ではなく、他のものでも代用可。(ステッカーや教師自作の宝など。)
- ・クラスの数や実態に応じて、グループごとに行うのではなく、代表を1人選び、全体で行ってもよい。
- ・実際の身近な物を使って、Where is my (your) pen? (あなた(私)のペンはどこですか。)と簡単に活動することができる。次時に復習として行う。

活動名	好きな給食は何だろう？ 給食ランキング												
活動時間	25～30分												
活動の単元	We Can! 1 Unit8 What would you like?												
活動のねらい	・丁寧な言い方で、好きな給食を聞いたり答えたりすることができる。												
取り上げる英語表現	What would you like? (何を召し上がりますか。何が好きですか。) I'd like spaghetti. (私はスパゲッティが好きです。) Thank you. (ありがとう。) You're welcome. (どういたしまして。)												
取り上げる英単語(例)	(食べ物) rice bread miso soup ramen curry and rice omelet salad fried chicken grilled fish spaghetti												
準備するもの	<p>・インタビュー用紙(ランキング欄含む)</p> <table border="1" data-bbox="317 617 596 896"> <thead> <tr> <th data-bbox="317 617 459 646">Name</th> <th data-bbox="459 617 596 646">menu</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="317 646 459 675"></td> <td data-bbox="459 646 596 675"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="317 675 459 704"></td> <td data-bbox="459 675 596 704"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="317 704 459 733"></td> <td data-bbox="459 704 596 733"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="317 733 459 762"></td> <td data-bbox="459 733 596 762"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="317 762 596 896"> 予想ランキング No.1 No.2 No.3 </td> </tr> </tbody> </table>	Name	menu									予想ランキング No.1 No.2 No.3	
Name	menu												
予想ランキング No.1 No.2 No.3													
活動内容/ 活動の流れ													
<p>① 既習事項の英単語や、What would you like?の疑問文とその答え方を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーカード等を使い、その後の活動で使用する単語や、What would you like?とI'd like-の表現を何度も練習させる。 ・給食のメニューの中でわからない英単語はALTに聞いて発音練習をする。 <p>② クラスの給食ランキングを調べるために、インタビューを行う。</p> <p>HRTとALTでデモンストレーションを行ってインタビューの仕方を確認し、児童同士でインタビューを行う。</p> <p>(例) S1: Hi. (こんにちは。) S2: Hi. (こんにちは。)</p>													

- S1: What would you like? (あなたは、何が好きですか。)
 S2: I'd like spaghetti. (私は、スパゲッティが好きです。)
 What would you like? (あなたは、何が好きですか。)
 S1: I'd like bread. (私はパンが好きです。)
 Thank you. (ありがとう。)
 S2: You're welcome. (どういたしまして。)

- ・時間を決め、なるべくたくさんの児童にインタビューできるように声をかける。
- ・日本語を使わないように注意させる。
- ・黒板に基本表現、What would you like? I'd like ~、の文が書いてあるカードを貼っておく。児童は黒板を見ないで会話をするようにするが、どうしても分からない場合は黒板を一度見ても良い。しかし、会話するときは相手の顔を見て質問するようにする。

③ インタビューの結果から、クラスのランキングを予想する。

- ・ランキングは1位から3位まで、1位から5位までなど、クラスの状況によって決める。

④ クラスのランキングを発表する。

- ・あらかじめアンケートをとりランキングを発表するか、挙手をさせるか、英語で一人一人質問していくかなどクラスの状況によって集計の仕方を決める。

その他の方法

- ①給食のメインのおかず・ご飯またはパン・副菜・デザートなどのカテゴリー別にランキングを予想する。
 ・インタビューでは、それぞれのカテゴリー別の質問の仕方を知る。

- What main would you like? (メインでは、何が好きですか。)
 What side dish would you like? (副菜では、何が好きですか。)
 What soup would you like? (スープでは、何が好きですか。)
 What dessert would you like? (デザートでは、何が好きですか。)

- ・ランキングのつったメニューについては、献立表などで確認するのも良い。

- ②カテゴリー別のランキングを発表する。
 ③各グループで、インタビューの結果から一食分のメニューを考えて発表する。
 ※慣れてきた児童には以下のように、相手も答えに対して何か感想等を言うように促す。

- S1: What dessert would you like? (デザートでは何が好きですか。)
 S2: I'd like an apple. (私はリンゴが好きです。)
 S1: I don't like fruits. (私はフルーツが好きではないな。)
 S2: What dessert would you like? (何のデザートが好きなんですか。)
 S1: I'd like an ice cream. (私はアイスクリームが好きだな。)

活動名	月の名前を覚えよう！
活動時間	35分（各活動5～15分）
活動の単元	We Can! 2 Unit 1 This is ME!
活動のねらい	・月の名前をすらすらと言えるようにする。
取り上げる英語表現	What is 5月? (5月は何ですか。) What month is it? (それは何月ですか。) It's May. (5月です。) When is こどもの日? (こどもの日はいつありますか。) It's in May. (5月にあります。) (月の名前)
取り上げる英単語(例)	January February March April May June July August September October November December
準備するもの	・月の名前カード(板書用)、月の名前カード(個人用) ・月の名前カード(グループワーク用)*各4色用意する。
活動内容/ 活動の流れ	
<p>① 月の名前を練習する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書用カードを使って January～December をテンボ良く発音練習する。 その後、What is 5月? (5月は何ですか。) - May. の表現を使って練習する。 <p>② 月の名前ビンゴをする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人カードを用意し、その中から9枚選び、3×3でカードを並べる。 <p>HRT: What month is it? (それは何月ですか。)</p> <p>ALT: It's May. (5月です。)</p> <p>選んだカードがあったらそのカードを裏返す。</p> <p>ビンゴになったらポイントをあげる。一定の人数がビンゴになったら終わりにする。</p> <p>③ 月の名前を順番に覚える活動 Part 1 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人組にし、HRTは各グループに各4色ある月の名前カード(グループワーク用)を配る。 各グループで人数分カードを配り、ジャンケンをする。勝った人から January と発音しながら手元のカードを出していく。出すカードがなければ Pass. と言って次の人に回す。カードが早くなったら勝ち。 <p><u>※同じカードを2枚まで、続きのカードを3枚まで出してもよいというルールにするとやや難易度が上がる。(例: January 2枚, January-February または January-February-March)</u></p> <p>④ 月の名前を順番に覚える活動 Part 2 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4人組で行う。トランプの7並べと同じ要領で、July をもっている人が最初にカードを出す。ジャンケンで勝った人から月名を発音して、同色の隣にくる月名のカードを置く。出すカードがなければ Pass. と行って次の人に回す。早くカードがなくなったら勝ち。 <p>⑤ 全体でもう一度 January～December の発音練習をする。その後で When is こどもの日? (こどもの日はいつありますか。) と質問し、It's in May. (5月にあります。) と答える。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・in のイメージを伝えるために指で円を描きながらカレンダーの5月5日を指して It's in May. と答え方を教える。同じ要領で祝日や行事名を変えて練習する。 	

活動名	Who is he / she ? (彼/彼女は、だれでしょう?)	
活動時間	20～25分	
活動の単元	We Can! 2 Unit3 He is famous. She is great.	
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズをとおして、進んで、身近な人物(教師)についての紹介文を聞くとする。 ・できることやできないことの表現や名前を書くことに慣れ親しむ。 ・他者に配慮しながら、第三者について伝え合おうとする。 	
取り上げる英語表現	Who is he/she? (彼/彼女は誰でしょう。) He / She can run fast. (彼/彼女は速く走ることができます。) He / She can't jump high. (彼/彼女は高くジャンプすることができません。) He / She is big. (彼/彼女は大きいです。) He / She is from Tokyo. (彼/彼女は東京から来ました。) (食べ物) apple banana cake <i>sushi</i> (教科) music P. E. science math (動物) dog cat rabbit lion (スポーツ) soccer baseball tennis badminton (他) tall/low big/small long/short (先生を表す具体的なヒントとして)	
取り上げる英単語(例)	(他) tall/low big/small long/short (先生を表す具体的なヒントとして)	
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・教師へのアンケート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 先生の名前: _____ できること: _____ できないこと: _____ </div>	
活動内容/ 活動の流れ		
<p>※身近な存在である教師についてクイズが出されることを事前に知らせておき、誰のことを表現しているか考える活動をとおして、「できる/できない」や特徴を表す表現に慣れ親しませる。</p> <p>※挙手ではなく、答えを紙に書かせる。その際は、ローマ字で書くよう指示を出すことで、名前の表記の仕方やローマ字にも触れられるようにする。</p>		
<p>① 既習事項の英単語復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リョーカード」等を使い、その後の活動で使用する単語や表現を何度も練習する。 		
<p>② 例文を用いてゲームの概要を説明し、活動の内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例文には、We can! 2 Unit 3 P.24にある Let's Listen 2 を用いることで、教科書から Activity につなげることができる。 		
Let's Listen 2	英文	日本語訳
No.1	I have big ears. I have a red ribbon and yellow shoes. I can dance and sing well. I have a good friend. He can dance and sing well, too. He is famous and popular. He is nice to me. Who am I? Who is he?	私は大きな耳を持っています。赤いリボンと黄色い靴を身に着けています。ダンスと歌を歌うことが上手です。私にはよい友達がいる、彼もダンスと歌を歌うことが上手です。彼は有名で人気があり、私にとって最高の友人です。 私は誰でしょう？彼は誰でしょう？

③ ALT がクイズを出す。分かった児童から、解答用紙に答えを記入する。

・名前の表記に戸惑っている児童には、適宜机間指導を行う。

ALT: He can play baseball. (彼は野球をすることができます。)

He is good at dancing. (彼はダンスが上手です。)

He is the top of our school. (彼は学校の一番上にいる人です。)

Who is he? (彼は誰でしょう。)

④ 答えを解答用紙に記入する。

⑤ ③・④を繰り返し、クイズを複数問出す。

⑥ 答えを確認し、クイズで使った表現をALTに続いて言い、表現に慣れる。

※教師のクイズをとおして、自分のことを伝えたり、クイズを出したいという意欲付けを図る。

その他の方法

① 教師の名前とキーワードが書かれた紙を箱や袋に入れておき、児童に紙を引かせ、児童がその説明をする。

② 児童がクイズを考え、児童対児童のペア活動でクイズを行う。

・クイズの内容は、クラスの実態に応じてさまざまな題材を用いることができる。

→友達、有名人、アニメのキャラクターなど

【ペア活動例】



4人組になり、横、上下、斜めでペアを作ってクイズを出し合う。



号車毎に○の児童は動かず待機し、☆の児童同士、★の児童同士が場所を変えていきクイズを出し合う。

③ 導入では、キャラクターのプロフィールや外国版の名前を使って児童の興味・関心を高めることもできる。

【例】

・キティちゃんの本名

・ドラえものの外国版で使用されている名前

④ クイズ活動において、答える児童は当てるだけでなく、クイズとして出された人物やキャラクターなどについて、一言コメントをつけることでコミュニケーション能力育成につなげることもできる。

【例】

The answer is DORAEMON. He is nice.

(彼はドラえもんです。彼はすてきです。)

活動名		Interview BINGO																											
活動時間	15分																												
活動の単元	We Can! 2 Unit 4 I like my town.																												
活動のねらい	・自分たちの行きたい場所について会話することができる。																												
取り上げる英語表現	Do you want to go - ?	☆BINGO!! 友だちに「～に行きたい」と質問をして、ビンゴを完成させよう。 Yes, I do と答えた人の名前だけ () に書きこむ。 (聞き方) Do you want to go to <u>the USA</u> ? (答え方) Yes, I do. / No, I do not (don't).																											
取り上げる英単語 (例)	場所、国、施設などの名前。																												
準備するもの	・ビンゴ (英語 (文字) だけでなく、絵でも可)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>Tokyo</td> <td>Tokyo Disney</td> <td>the USA</td> </tr> <tr> <td>Disney Land</td> <td>Sea</td> <td></td> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>Yao</td> <td>Tetsudou</td> <td>Hokkaido</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Museum</td> <td></td> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>Metsa</td> <td>Onsen</td> <td>The UK</td> </tr> <tr> <td>in Hanno</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> </tr> </tbody> </table>	Tokyo	Tokyo Disney	the USA	Disney Land	Sea		()	()	()	Yao	Tetsudou	Hokkaido		Museum		()	()	()	Metsa	Onsen	The UK	in Hanno			()	()	()
Tokyo	Tokyo Disney	the USA																											
Disney Land	Sea																												
()	()	()																											
Yao	Tetsudou	Hokkaido																											
	Museum																												
()	()	()																											
Metsa	Onsen	The UK																											
in Hanno																													
()	()	()																											
活動内容/ 活動の流れ																													
① デモンストレーション																													
JTE が ALT にいくつか質問																													
JTE: Do you want to go to Tokyo Disneyland? (あなたは東京ディズニーランドへ行きたいですか。)																													
ALT: Yes, I do. / No, I don't. (はい、行きたいです / いいえ、行きたくないです。)																													
② JTE が数人の児童に質問																													
JTE: Do you want to go to the UK? (あなたはイギリスに行きたいですか。)																													
S1: Yes, I do. / No, I don't. (はい、行きたいです。 / いいえ、行きたくないです。)																													
③ ビンゴ																													
その他の方法	※慣れてきたら、答えた後に、そこでしたいことや、答えの理由などを付け加えるようにする。 (例) Yes, I do. I want to go to Yankee Stadium. (ヤンキースタジアムに行きたい。) No, I don't. I don't have much money. (そんなにお金を持ってない。) ※Do you play ~? Do you like ~? Can you ~? Will you ~ などに応用可。 Yes/ No だけでなく、ビンゴ内の語を答えさせることで、疑問詞を用いた疑問文でも可能。 Where do you want to go? (あなたはどこに行きたいですか。) What do you want to play? (あなたは何をしたいですか。) など																												

活動名	誰の夏休みでしょうか
活動時間	25～30分
活動の単元	We Can! 2 Unit5 My Summer Vacation
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の夏休みの思い出を紹介することができる。 ・思い出を聞き取りながら、誰の夏休みの思い出かを推測しようとする。
取り上げる英語表現	<p>I went to the zoo. (私は動物園に行きました。)</p> <p>I enjoyed watching animals. (私は動物を見て楽しみました。)</p> <p>I saw a panda. (私はパンダを見ました。)</p> <p>It was cute. (それは、かわいかったです。)</p> <p>I ate obento. (私は、お弁当を食べました。)</p>
取り上げる英単語 (例)	<p>〈場所〉 sea beach mountain lake river amusement park zoo pool aquarium grandparent's house</p> <p>〈気持ち〉 fun exciting nice good delicious beautiful cool cute</p> <p>〈動作〉 fishing hiking swimming shopping camping</p>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方からインタビューしてきた内容が書いてあるヒントカード ・紹介するためのメモシート
活動内容/ 活動の流れ	
<p>※校内の先生方の夏休みの思い出を先生になりきり紹介し、誰の夏休みの思い出なのかを予想させる。</p> <p>Who am I? クイズをとおして夏休みの思い出の紹介の仕方を練習する言語活動である。 (児童が紹介するときのモデリングとなる)</p> <p>① 既習事項の英単語や、思い出について話す文の復習をさせる。 ・ビジュアルカード等を使い、その後の活動で使用できる単語や、表現を何度も練習させる。</p> <p>② HRTがデモンストレーションを行う。 ※児童に誰の夏休みの思い出かを予想させる。</p> <p>HRT: My summer vacation. (私の夏休み)</p> <p>I went to the zoo. (私は、動物園に行きました。)</p> <p>I saw a panda. (私は、パンダを見ました。)</p> <p>It was very cute! (パンダはとてもかわいかったです。)</p> <p>I like pandas. (私は、パンダが好きです。)</p> <p>Who am I? (私は誰でしょう。)</p> <p>S1: ○○teacher!</p>	

S2: ○○teacher!

HRT: That's right! I'm ○○teacher. (その通りです。私は○○先生です。)

- ③ 先生方の思い出が書いてあるヒントカードを児童に配布する。配布されたヒントカードをもとにメモシートを記入させる。(ヒントカードを見て、下線部に書き写させる)【書く活動】

ヒントカード (例) 児童配布用

○○先生の夏休み

行った所 : 海 (the sea)

楽しんだこと : 泳ぐこと (swimming)

食べたもの : アイスcream (ice cream)

感想 : 楽しかった (fun)

メモシート (例) 児童記入用

My summer vacation.

I went to _____.

I enjoyed _____.

I ate _____.

It was _____.

Who am I ?

- ④ 作成したメモシートをもとに児童同士(2人組)でWho am I?クイズをする。

S1: My summer vacation. (私の夏休み)

I went to the sea. (私は、海に行きました。)

I enjoyed swimming. (私は、泳ぎを楽しみました。)

I ate ice cream. (私は、アイスcreamを食べました。)

It was fun. (楽しかったです。)

Who am I? (私は誰でしょう。)

S2: ○○teacher!

S1: That's right! I'm ○○teacher. (その通りです。私は○○先生です。)

- ⑤ ペアを変え、複数回取り組ませる。

- ⑥ 活動をもとに、児童自身の夏休みを発表させる。

その他の方法

- ・⑥で作った文を③のメモシートに児童に書かせる。そのカードを集め、他の児童に渡し、同じようにWho am I?クイズを行う。
- ・先生方に書いてもらった思い出をもとに、日記を作成させ、その思い出を班のメンバーに紹介する。また班のメンバーはそれを聞き、それについての質問をする。

(例)

S1: My summer Vacation. (私の夏休み)

I went to Nagano. (私は長野に行きました。)

I enjoyed shopping. (私は買い物を楽しみました。)

It was very fun. (とても楽しかったです。)

S2: What did you eat? (あなたは何を食べましたか。)

S1: I ate soba. (私はそばを食べました。)

活動名	仲間さがし
活動時間	20～30分
活動の単元	We Can!2 Unit7 My Best Memory
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や様々な思い出の言い方やその尋ね方に慣れる。 ・行事や様々な思い出を聞き取る。
取り上げる英語表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ What's your best memory? (あなたの一歩の思い出は何ですか?) ・ My best memory is the school trip. (私の一番の思い出は修学旅行です。) (・ I enjoyed running.)
取り上げる英単語 (例)	(6年間の思い出) entrance ceremony graduation ceremony school trip, field trip sports day music ceremony Marathon swimming meet 等
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示用ピクチャーカード(行事や思い出) ・ ミニピクチャーカード(掲示用と同じ絵で児童が持つもの)
活動内容/ 活動の流れ	
<p>※同じ思い出を選んだ友達を探して仲間になっていく活動。自分の思いを伝え合いながら、単語や文章を言ったり聞いたりすることに慣れ親しむことを意識した言語活動である。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> ① 活動の中で扱う行事や思い出のピクチャーカードを黒板に掲示しながら単語を確認し、発音練習していく。 ② 自分の Best memory を選び、そのミニピクチャーカードを1枚ALTやHRTから受け取る。 ③ 周りの人に見られないようにしながらカードを持って教室内を歩き、インタビューする相手を見つける。 ④ 相手を見つけたら "What's your best memory?" と尋ね、 "My best memory is the school trip." 等と答え、インタビューし合う。 ⑤ 同じ思い出を選んでいたらそのまま仲間になり、一緒に他の仲間を探してインタビューを続ける。違った場合は "Bye." と言って分かれ、また③④を繰り返す。 ⑥ 時間内にできるだけたくさん仲間を見つけるように声をかけていく。 	
<p>※グループができて複数でインタビューし合う場合は全員が必ずインタビューし合えるように、2人対2人の場合はそれぞれ1対1でインタビューし合う。人数が違った場合は少ないグループの誰かが2回インタビューに応じるなど工夫し、ゲーム開始前に児童に方法を伝えておく。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> ⑦ 時間になったら仲間同士で一緒に座る。 (発展) グループ内でその行事の何が特に楽しかったのかを英語で話し合う。 	

例：I enjoyed eating lunch. I enjoyed running.

(私は昼食を食べることを楽しみました。私は走ることを楽しみました。)

⑧ グループ毎に何の思い出のグループだったのかを全体に発表する。

※ALT が各グループに “What’s your best memory?” と尋ね、グループ全員で “My best memory is the school trip.” 等と答える。

その他の方法

① クラス全体で二重の円になり、外側と内側でインタビューする。
(例:内側の児童が尋ねる・外側の児童は答える)

②①と同様に二重の円になる。外側の児童(答える児童)の中にラッキーパーソンを5名程度事前に決めておく。ゲームの最後にラッキーパーソンを発表し、ラッキーパーソンに何人インタビューできたか競う。

※ 時間があれば(もしくは次時に)⑦で発表し合った内容を詳しくまとめ、発表する。絵日記等にまとめられると良い。

(例) Our best memory is school trip. (私たちの一番の思い出は修学旅行です。)

We went to Kamakura. (私たちは鎌倉へ行きました。)

We saw *Daijutsu*. (私たちは大仏を見ました。)

We enjoyed climbing a mountain. (私たちは山登りを楽しみました。)

It was very fun. (とても楽しかったです。)



HRT: What's your best memory? (あなたの一番の思い出は何ですか。)

ALT: My best memory is my school trip. (私の一番の思い出は修学旅行です。)

It was fun. (あの時は楽しかったです。)

HRT: Why? (どうしてですか。)

ALT: I went to the aquarium and I saw dolphins. (私は水族館に行って、いるかを見たからです。)

HRT: Sounds great. (いいですね。)

ALT: Thank you. (ありがとうございます。)

HRT: You're welcome. (どういたしまして。)

ALT: What's your best memory? (あなたの一番の思い出は何ですか。)

HRT: My best memory is sports day. (私の一番の思い出は運動会です。)

It was very exciting. (あの時はとても興奮しました。)

ALT: Why? (なぜですか。)

HRT: I won an 100-meter relay. (私は、100メートルリレーで勝ったからです。)

ALT: It's wonderful. (すごいですね。)

HRT: Thank you. (ありがとうございます。)

ALT: You're welcome. (どういたしまして。)

HRT: Good bye. (さようなら。)

ALT: Good bye. (さようなら。)

- ④ デモンストレーションの内容を児童に確認する。また感情表現を含め再度、②で行った練習を繰り返す。
- ⑤ ビンゴシート内を選んで学校行事を書き入れていく。(ある物から選ぶ。)
- ⑥ クラス内の児童同士(2人組)で質問をし合い、ビンゴシート内を選んで学校行事に相手が答えたものがあつたら、そこにサインをしてもらう。また、その思い出の感想も聞き取ることができたらマス内にメモをする。さらに何か一つ質問をするように伝える。
- ⑦ ビンゴになるまで、または、時間設定をし、制限以内まで相手を変えながら繰り返す。

その他の方法

- ① クラスの Best Memory ランキングを作っていく。

・クラスの思い出写真を黒板に貼る。

・予想を立てる。

※事前にアンケートをとって、順位は教師だけが確認しておく。

- ② 氏名箋を各自持ち、インタビューしていく。お互いが感想等をできるだけ言えるようにうながす。

A: What's your best memory? (あなたの一番の思い出は何ですか。)

B: My best memory is my school trip. It was fun.

(私の一番の思い出は修学旅行です。あの時は楽しかったです。)

A: Great! (いいですね。)

- ③ 集計して、クラスの Best Memory を知る。

※時間があれば(なければ次時に)自分の Best memory を簡単に書かせる。

(例) ()内のみ記入させる。

My best memory is (school trip). (私の一番の思い出は修学旅行です。)

I went to the (aquarium). It was (exciting). (水族館に行き、わくわくしました。)

活動名	中学校の部活発表
活動時間	30～40分
活動の単元	We Can!2 Unit9 Junior High School Life
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な既習表現を使い、中学校の部活について紹介しようとする。 ・発表や質問の大まかな内容を理解し、それに答えようとする。
取り上げる英語表現	<p>This is soccer club activity. (こちらはサッカー部です。)</p> <p>28 members are in the team. (28人の選手がチームにいます。)</p> <p>The teacher is Ms. Tanaka. (先生は田中先生です。)</p> <p>The students use a ball. (生徒達はボールを使います。)</p> <p>Do you like soccer? (あなたはサッカーが好きですか。)</p> <p>Yes, I do. I like soccer. / No, I don't. I don't like soccer. <small>(はい、私はサッカーが好きです。) (いいえ、私はサッカーが好きではありません。)</small></p> <p>What sport do you like? (あなたは何のスポーツが好きですか。)</p> <p>I like baseball. (私は野球が好きです。)</p>
取り上げる英単語 (例)	<p>(部活) soccer basketball baseball music art club activity</p> <p>(部活に使う主な道具) ball bat racket flute blush</p> <p>(人数) 数字</p>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・進学先中学校の入学説明会資料 ・各部活の情報を書いたメモ用紙 (児童数分)
活動内容/ 活動の流れ	
<p>※中学校の部活について発表し、質問をし合う活動。これまでに学習してきた様々な文章を組み合わせて質問したり、それを聞き取って答えたりすることに慣れ親しむことを意識した言語活動である。</p> <p>① 中学校の部活について、①部活名 ②人数 ③顧問の先生 ④使う道具 を書いたメモ用紙を用意する。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 100px;"> (例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>①テニス部</p> <p>②22人</p> <p>③山下先生</p> <p>④ラケット</p> </div> </div> <p>② 1人に1枚、部活メモをランダムに渡す。</p> <p>③ 受け取ったメモからそれぞれ発表するときの文章を考え、練習する。*ALTが発音の見本を行う。</p> <p>(例) This is tennis club activity. (こちらはテニス部です。)</p> <p>22 members are in the team. (22人の選手がチームにいます。)</p> <p>The teacher is Ms. Yamashita. (先生は山下先生です。)</p>	

The students use a racket. (生徒はラケットを使います。)

- ④ 発表後に言う質問を考え(選び)、質問と答え方の練習をする。*ALTが発音の見本を行う。
Do you like tennis? — Yes, I do. I like tennis. / No, I don't. I don't like tennis.
What sport do you like? — I like baseball. 等
- ⑤ 3～5人程度のグループになり、それぞれ自分の担当する部活について発表する。(③の文章)
- ⑥ 発表が終わったら④で練習した質問をグループの人たちに尋ねる。
- ⑦ グループのメンバーは一人ずつ質問に答えていく。
- ⑧ 他の人たちも⑤～⑦を順番に行っていく。

その他の方法

※上記の活動後に自分の本当に入りたい部活について紹介する。

- ① 自分の入りたい部活について、なぜ入りたいのか考えさせる。
(例) I play soccer every day. (私は毎日サッカーをしています。)
So I want to join the soccer club. (だからサッカー部に入りたいです。)

・入りたい理由について日本語で最初に書かせる。それを英語に表現できない児童に対しては支援をする。

- ② ①の文を発表した後にその部活動のメモ用紙を渡し、練習させる。
- ③ 3～4人のグループになり、それぞれが自分の入りたい部活について、発表する。
- ④ 発表を聞いた児童は発表者に対し、感想や質問を言う。
(例) S1: I like playing soccer. (私はサッカーをすることが好きです。)
So I want to join the soccer club. (だからサッカー部に入りたいです。)
28 members are in the team. (28人の選手がチームにいます。)
The teacher is Mr. Tanaka. (先生は田中先生です。)
The students use a ball. (生徒達はボールを使います。)
S2: You play soccer well. It's good.
(君はサッカーをするのが上手だからね。良いと思うよ。)
S1: Thank you. (ありがとう。)
S3: Do you want to be a soccer player?
(あなたはサッカー選手になりたいのですか。)
S1: No, I like soccer. But I want to be a doctor.
(いいえ。サッカーは好きだけど、私は医者になりたいです。)

平成31年 3月 発行

